

(様式1)

## 令和5年度 第1回鶴岡市自殺予防対策ネットワーク会議(会議概要)

- 日 時 令和5年7月4日(火) 午後 1時30分から3時
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター ここ♥ふる3階 大会議室
- 出席委員 (敬称略)  
脇山拓(会長)、廣瀬陽(副会長)、大谷慈子、土屋清光、加藤吉晴、鳥海良明、堀通博、七森玲子、白幡俊、後藤茂、千田洋子、菅原清子、奥山和行、小林祐史(代)、足立優紀、柏倉貢、佐藤一子、澁谷玲子
- 欠席委員 網中純子、米野宏和、鈴木雄介、佐藤香
- 市側出席職員  
健康福祉部長 佐藤繁義、健康福祉部参事(兼)健康課長 佐藤正直、健康課高齢保健主査 石井美喜 健康課高齢保健主査 佐藤恵美子、健康課高齢保健係高齢保健係長 森直湖、健康課高齢保健係保健師 熊谷春菜、健康課高齢保健係保健師 鈴木杏子、健康課高齢保健係保健師 吉田光陽
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 3人
- 次 第
  1. 開会
  2. 会長挨拶
  3. 新委員紹介
  4. 報告
    - (1)鶴岡市の自殺の現状、特徴、自殺対策計画進捗状況 資料1
    - (2)令和4年度の取組と評価、令和5年度の取組 資料2
    - (3)いのち支える山形県自殺対策計画【第2期】の概要 資料3
  5. 協議
    - (1)鶴岡市こころ元気アップセミナー 資料4
    - (2)鶴岡市こころの健康づくりだより 資料5
    - (3)健康課のこころの健康づくりに関する事業
    - (4)鶴岡市でのSOS出し方・受け止め方教育の実施に向けて 資料6

6. その他
7. 閉会

## ○報告・協議内容(議長:脇山 拓会長)

### 4.【報告】(1)～(3)一括報告

- (1)鶴岡市の自殺の現状、特徴、自殺対策計画進捗状況 【資料1】説明 高齢保健主査 石井美喜
- (2)令和4年度の取組と評価、令和5年度の取組 【資料2】説明 高齢保健主査 石井美喜
- (3)いのち支える山形県自殺対策計画(第2期)の概要 【資料3】説明 高齢保健主査 佐藤恵美子

### 6. 【協議】(1)～(4) 提案・報告

- (1)鶴岡市こころ元気アップセミナー 【資料4】説明 健康課高齢保健係保健師 鈴木杏子
- (2)鶴岡市こころの健康づくりだより 【資料5】説明 健康課高齢保健係長 森直湖
- (3)健康課のこころの健康づくりに関する事業  
【資料こころの健康相談、若者ひきこもり相談、こころの健康づくり出前講座、こころの SNS 相談各種  
チラシ】説明 健康課高齢保健係長 森直湖
- (4)鶴岡市での SOS 出し方・受け止め方教育の実施に向けて  
【資料6】説明 高齢保健主査 佐藤恵美子

## ○ 協議(1)～(4)についての意見、感想

[議長] (1)の鶴岡市こころ元気アップセミナーでの活動報告等の案につきまして、具体的なご提案は今回初めてということになりますが、何かご意見等ございますでしょうか。

[委員] 活動報告ということで、資源として公開しているわけですし、我々としては「電話かけてくれてありがとう」という形で、常に対応しているわけですので、そのような実践を含めて活動のお話ができると思っています。

[委員] スクールカウンセラーとして地域に出る中で、お子さんたちが悩みを抱えて、「死にたい」など思いつめてしまうような状況も目にしています。今回の元気アップセミナーの講師の先生が、感情の教育はとても大事だっておっしゃっていて、それは本当に、年齢問わず子供から大人まで大切にしていけないといけないテーマだと思います。今の若い人たちは SOS の出し方教育だとか、感情教育を学校の中で教わる機会がありましたが、中高年以上の方は、おそらく自分の人生経験の中でそういうことを学習して、スキルを身につけてきたと思います。人間関係の中でのストレスは、この感情の部分でコントロールできないところがあるというのは皆あると思うので、その背景は様々ですが、その辺のことを佐藤恵子先生のテーマで勉強しつつも身近な私たちが抱える問題なども絡めて活動紹介というか、問題提起というような形でお話ができたらいいと思っています。

[議長] (3)の高齢者と関わりの深い介護保険事業所職員等のこころのサポーター研修の実施の関係について、高齢者に関することをご意見をお願いします。

[委員] 高齢者に関わる団体として、積極的に活用してほしいというお話がありましたので、「こころの健康づくり出前講座」に関しましては、報告にもありました60歳以上の自殺者が多いという現状があるということで、鶴岡市地域包括支援センターの連絡会に働きかけたり、介護サービス事業者さんに

紹介したりということで、関わりたいと感じたところです。

[委員]令和2年女性の自殺が多かったということで、若い有名人が相次いで亡くなったということから、それが引き金になったこと、コロナ禍で進学、就職だの、親のリストラや収入が減ったことなどもう少し深い掘り下げた説明は難しいのでしょうか。公式な国からの分析結果でも出ていればいいでしょうけど、そういうことが必要だと思います。具体的に答えてくれとは申しませんが、そういうことが公式的な見解があるのであれば紹介してもらいたいです。

また思ったのは、ワイドショーなどで過度な情報が多すぎる。余計にたくさんの人の死を招くことを減らせるのではないかと考えております。最近の感想です。

[議長]ありがとうございます。前半にありました自殺の原因ですけれども、おそらくいわゆるワイドショーのコメンテーター的にはよく出されている視点ですし、立証はできないがそういうことがあるのは間違いないだろうからと放送のガイドラインという、必ず相談窓口のセットで載せないとだめだという形で厚生労働省からも言われているのはあると思いますが、市の方が話すのは難しいと思います。

[事務局]ご意見ありがとうございました。おっしゃる通り、昨年度のこの会議で令和2年の分析としまして、芸能人の自殺とコロナ禍というところが、影響していると言わざるをえないという国の報告はコメントとして付け加えさせていただきました。令和3年、4年の分析につきましては、そこまで細かいところはなく、芸能人の自殺の報道のあり方の問題は取り上げすぎないというところ、センセーショナルに取り上げすぎないというところの情報がこちらにも入っているところです。

[議長]この場だけでも、情報共有、いろいろな活動をする時に頭の隅に入れておく必要もあると思いました。

それでは、協議の(4)鶴岡市でのSOS出し方・受け止め方教育の実施に向けて、のところににつきまして、ご意見を伺って、いきたいと思っておりますが、この件に関しまして、本日は欠席なのですが、事前にご意見をいただいているということでしたので、事務局よりご紹介をお願いします。

[事務局意見代読]欠席委員よりご意見頂戴しております。読み上げさせていただきます。

生きていれば、悩むこともあるという前提で資源を利用し、助けを求められることを知っておく教育、心のたくましさ、回復力、レジリエンス教育、ストレスマネジメント教育の大切さを日頃から思っております。また自然体験、運動することがストレス耐性の向上に繋がっていることも、子ども達にしっかり伝えていきたいです。また、本市は都会のようなフリースクールがまだまだ少なく、学びの方法、場所、時期が選べるようになると、救われる大人も子どももいるのではないかと感じております。

[委員]高校ですが、児童生徒の自殺予防に向けたこころの教育ということで、命の教育やいじめ防止対策の推進を行っているところです。命の教育では主にスクールカウンセラーの思春期講話ですとか、助産師の性教育講話を行ったり、警察署の薬物乱用防止教育を行ったりなど、色々な分野から命について教育を行っているところです。

いじめ防止対策については6月と12月にいじめアンケートを生徒と、保護者の方にも実施しているところです。

今年度からスクールソーシャルワーカーを庄内地区に派遣していただけるという新たな取り組みを利用して、学校内だけだと難しい案件などを主に対応していきたいと思っております。県健康福祉部からいただいている、心の健康相談@山形ということでラインで相談できるので、最近の子達にとっては相談しやすい取組だと思います。他にも、県教育センターからも、教育相談の案内もきて

いて、職員的には一本化してほしいというような声もあったのですが、私個人としては相談者が相談しやすい方法で相談できれば一番いいと思っています。このラインのチラシですとか、生徒たちに周知していきたいなと思います。

[議長] (4)の鶴岡市のSOS出し方・受け止め方教育の実施に向けてについて、質問なのですが、具体的にかなりいろいろな課題で外部講師の授業をしたいという取り組みというのは行われてきていると思うのですが、結局、本来のカリキュラムがいっぱいでなかなか時間を取っていただけないという問題に直面することが多いのですが、この事業についてそのへん具体的にはどんな見込みか、今わかることがあれば教えてください。

[事務局] 鶴岡市のSOS出し方・受け止め方教育の実施に向けて、県からは3月の時点でこのような事業があるので取り組みを各市町村でも学校と協働しながら進めてほしいということで案内が来ておりまして、今年度につきましては10町村の希望があったということ、県から聞いております。学校と調整するにあたり、今年度の授業とすると学校側の調整がかなり厳しいかなと思ったものですから、本市では来年度に向けて、今年度調整をして、実施可能な学校に調整をしていきたいと考えております。

## 6. その他

[委員] 秋田・青森・岩手の南東北エリアで、県で啓発予防の活動をされている民間団体の交流会を持ち回りでやっています。今年度が18回目ということで、今年は青森で開催するようです。そちらの視察を検討しています。山形は、南東北ではないが、声をかけられており、来年度庄内で開催することが正式に決まりましたら、いろいろな場面でお声掛けさせていただくかもしれませんので、よろしくをお願いします。

[委員] こころの元気アップセミナーのチラシをいただきましたので、会員の先生方にお配りしたいと思います。また、当センターには若い方から高齢の方まで年間3万を超える利用者さんがおりますので、こころの健康づくりに関するチラシを置いて関心のある方から持って行っていただけるようなことも出来るかなと思います。

[事務局] ありがとうございます。こころの健康づくりに関するチラシなど早速準備させていただきます。

[事務局] 毎年10月が健康づくり強調月間となっております、1ヶ月間にこふる館内にポスター等を掲示し関係機関、関連団体による情報提供を行っております。鶴岡市自殺予防対策ネットワーク会議の団体についても、事務局で自殺予防やこころの相談窓口についてのポスター掲示をさせていただく予定となっております。団体様の方で設置して欲しい資料がございましたら、昨年度の来館の実績ですと200から300ほどご準備していただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

[事務局] 本日も提案させていただいた事業については、着実に進めていきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。